

患者ケア実践に基づく薬歴管理のスキル向上を目的とした症例検討会の開催と評価

○ 森内 新¹⁾ 岩淵 睦子¹⁾ 金野 亜純¹⁾ 駿河 幸¹⁾ 高橋 和恵¹⁾
野坂 明美¹⁾ 馬場 亮輔¹⁾ 佐藤 大峰¹⁾ 田中 和¹⁾ 早川 達²⁾

1) 株式会社ライプリー 2) 北海道薬科大学

目的

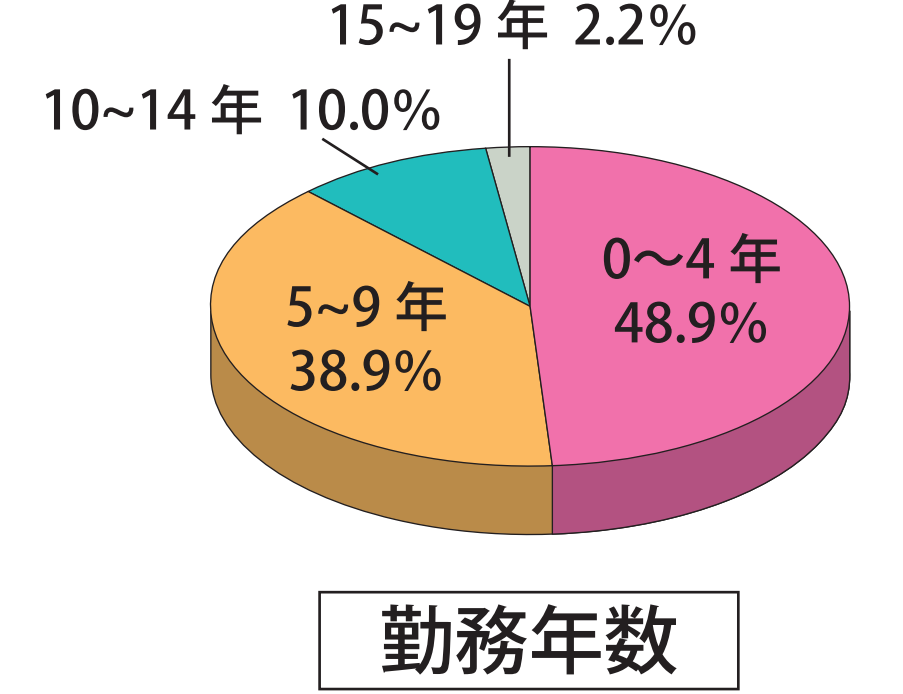
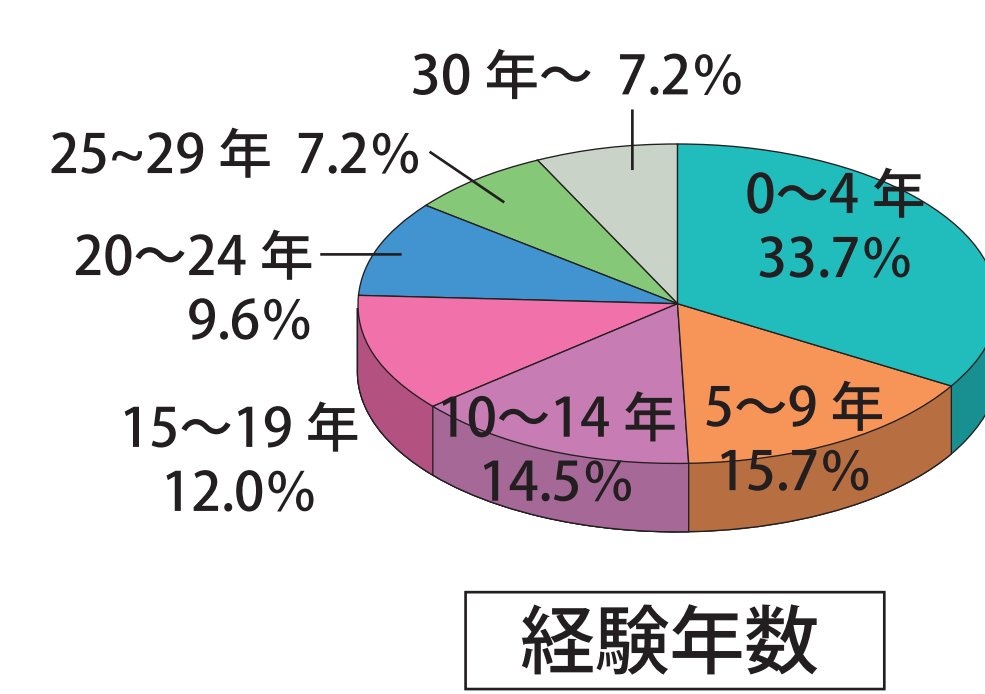
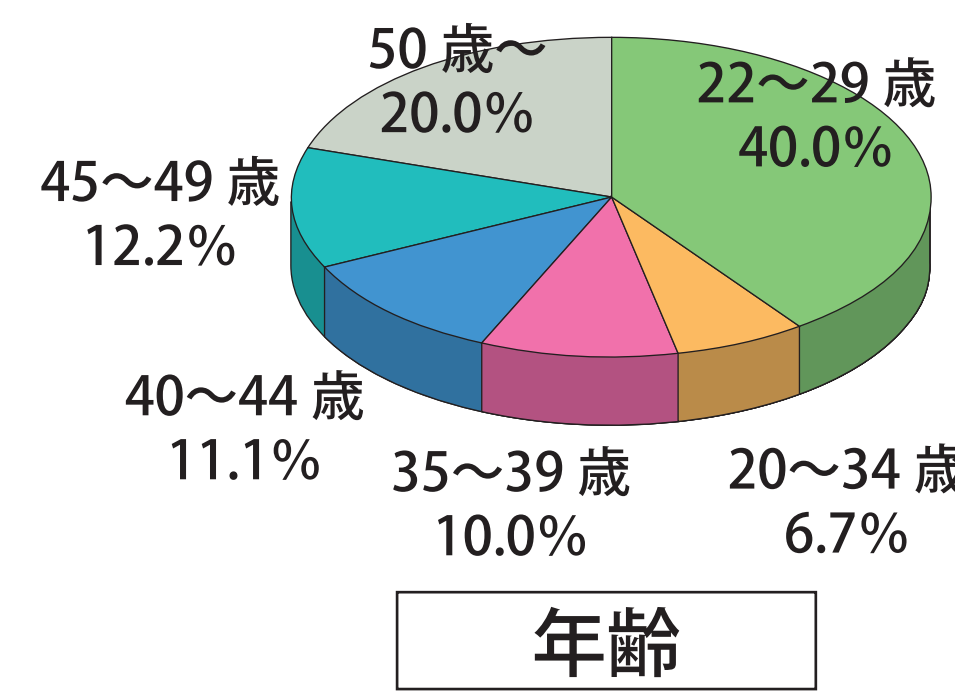
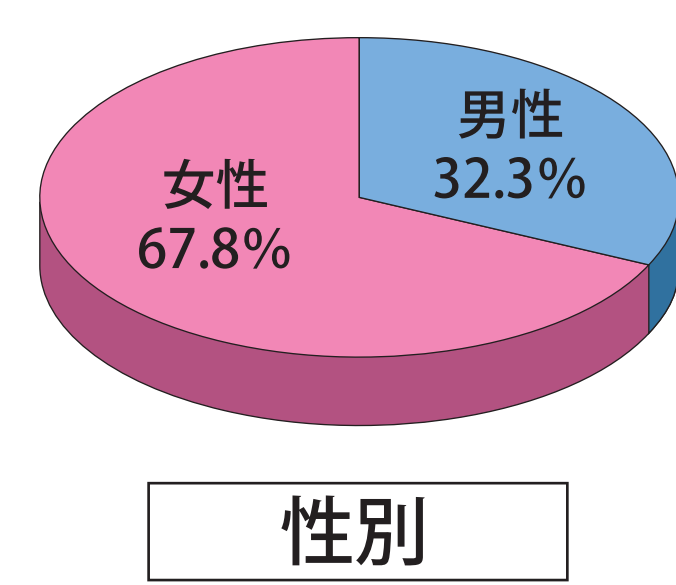
近年、薬剤師業務の物質志向から患者志向への変化に伴い、薬歴管理業務が重要視されている。しかし、十分な薬歴管理がなされていない現状があり、その解決策として、患者マネジメントの考えに基づく患者ケア実践力が必要である。そこで、我々は、全社員を対象としたグループ形式の症例検討会を企画し、その成果を評価することを目的とした。その結果を報告する。

セミナーの概要

内容：7～8名/
グループとチューターでの症例検討会
会場：北上・盛岡2会場
検討時間：60分

参加者

北上会場46名、盛岡会場47名（外部参加者を含む） アンケート回答率：96.8%



セミナーの流れ



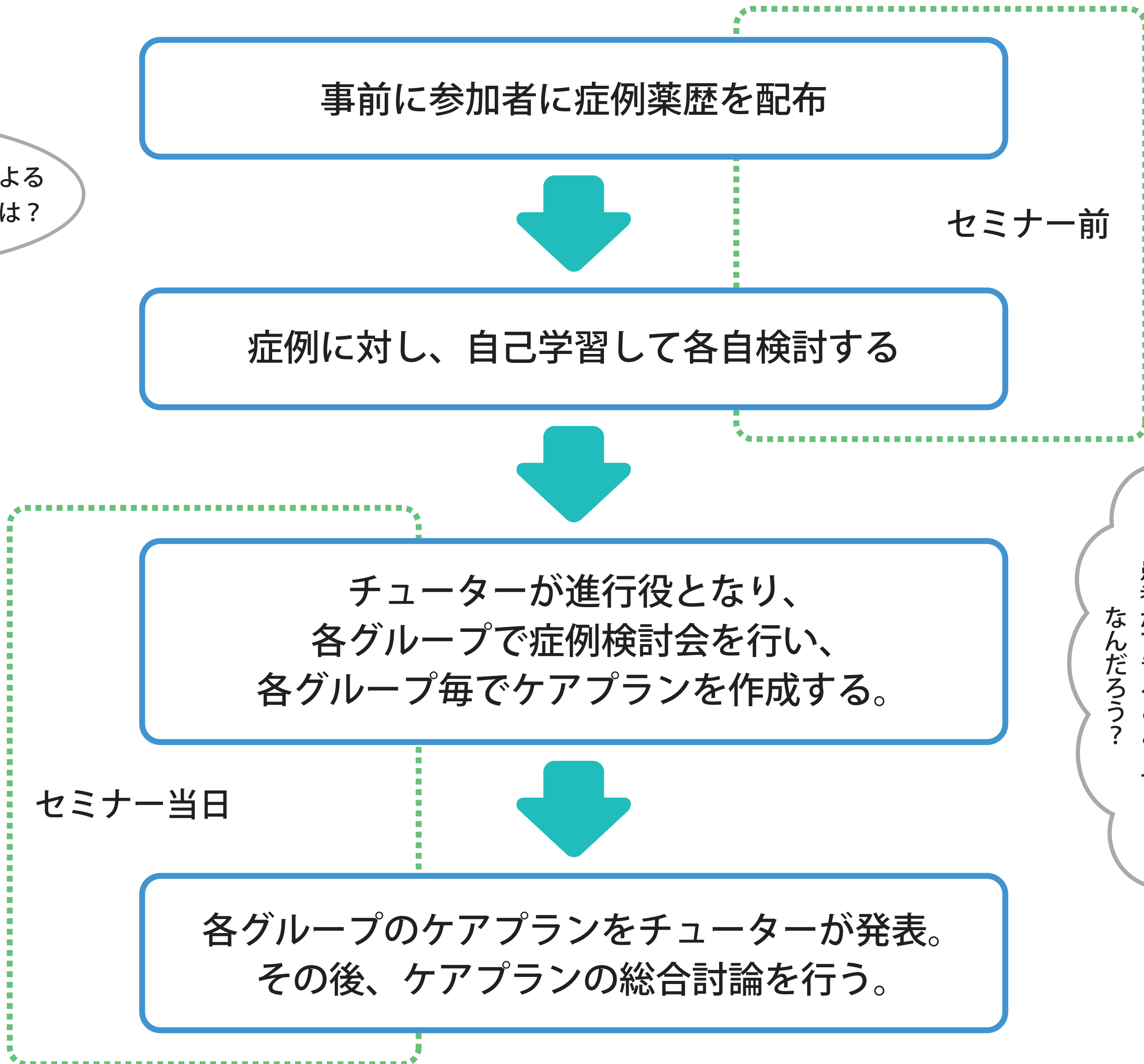
患者の生活環境から併用薬による影響を聞きとってみるべきでは？

オーディットを実施するために症例検討会の方法を身につけます。

挙げられた患者プロブレムよりこの患者に必要なケアプランを挙げてみてください。



患者の個別状況を把握するための聞き取りのポイントを身につけます。



血清尿酸値の目標達成のために患者ができることってなんだろう？

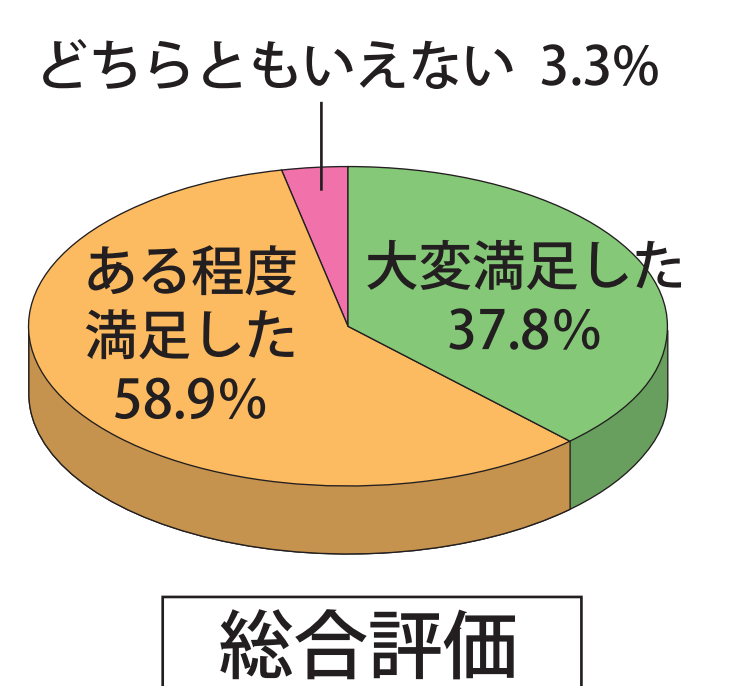
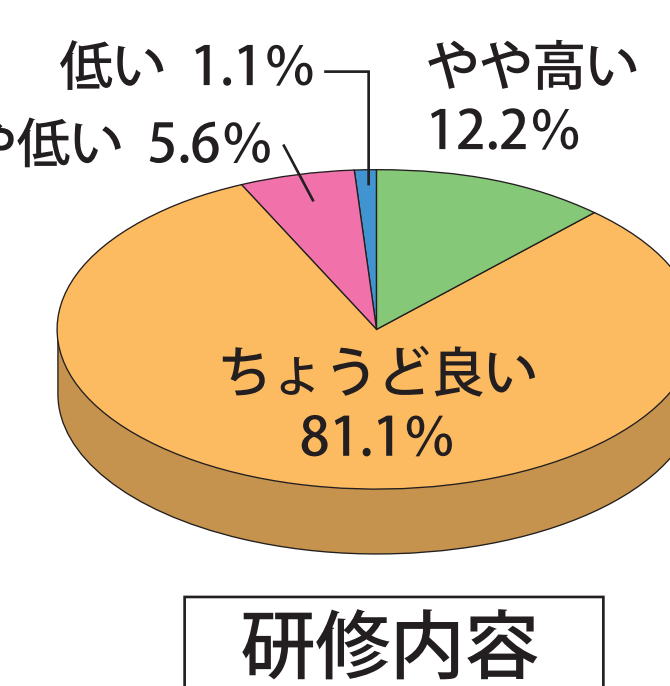
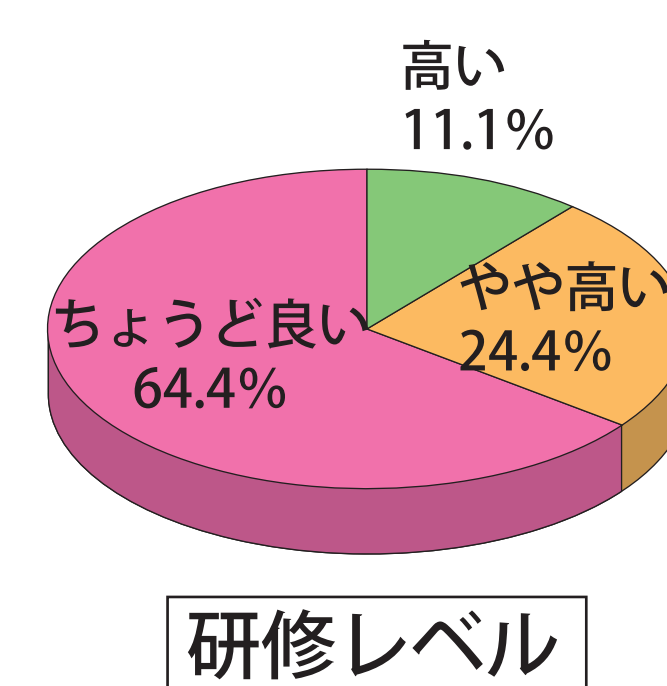
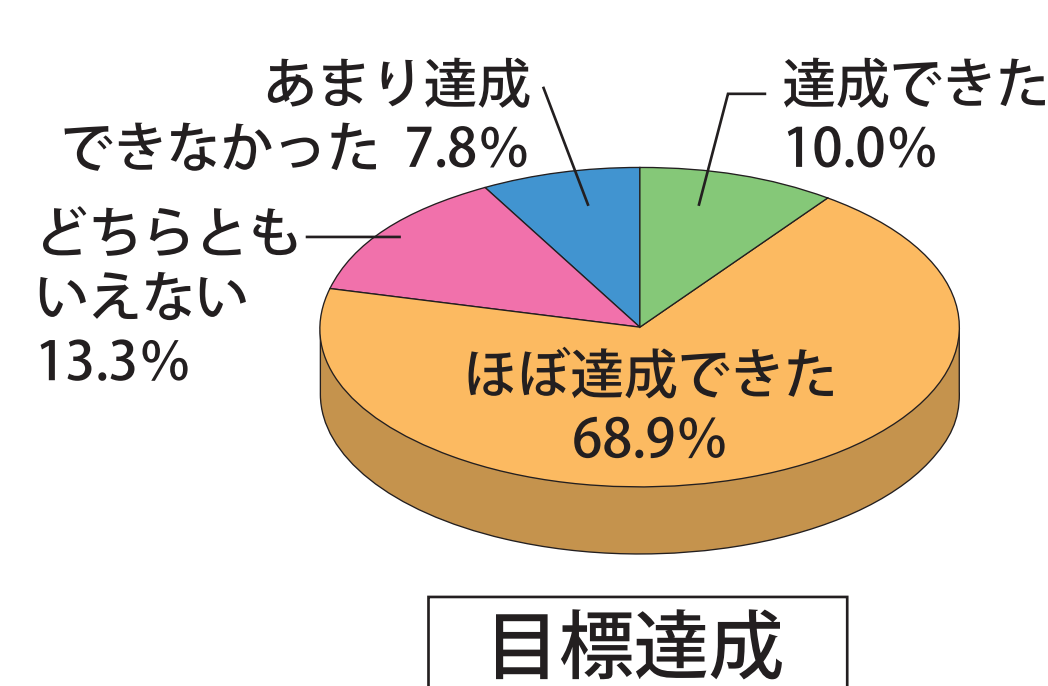


まだ患者から聞いてない聞き取り項目から患者プロブレムリストを挙げてみよう。

薬学的問題点の抽出と解決するための必要なスキルを身につけます。

セミナーの効果

満足度

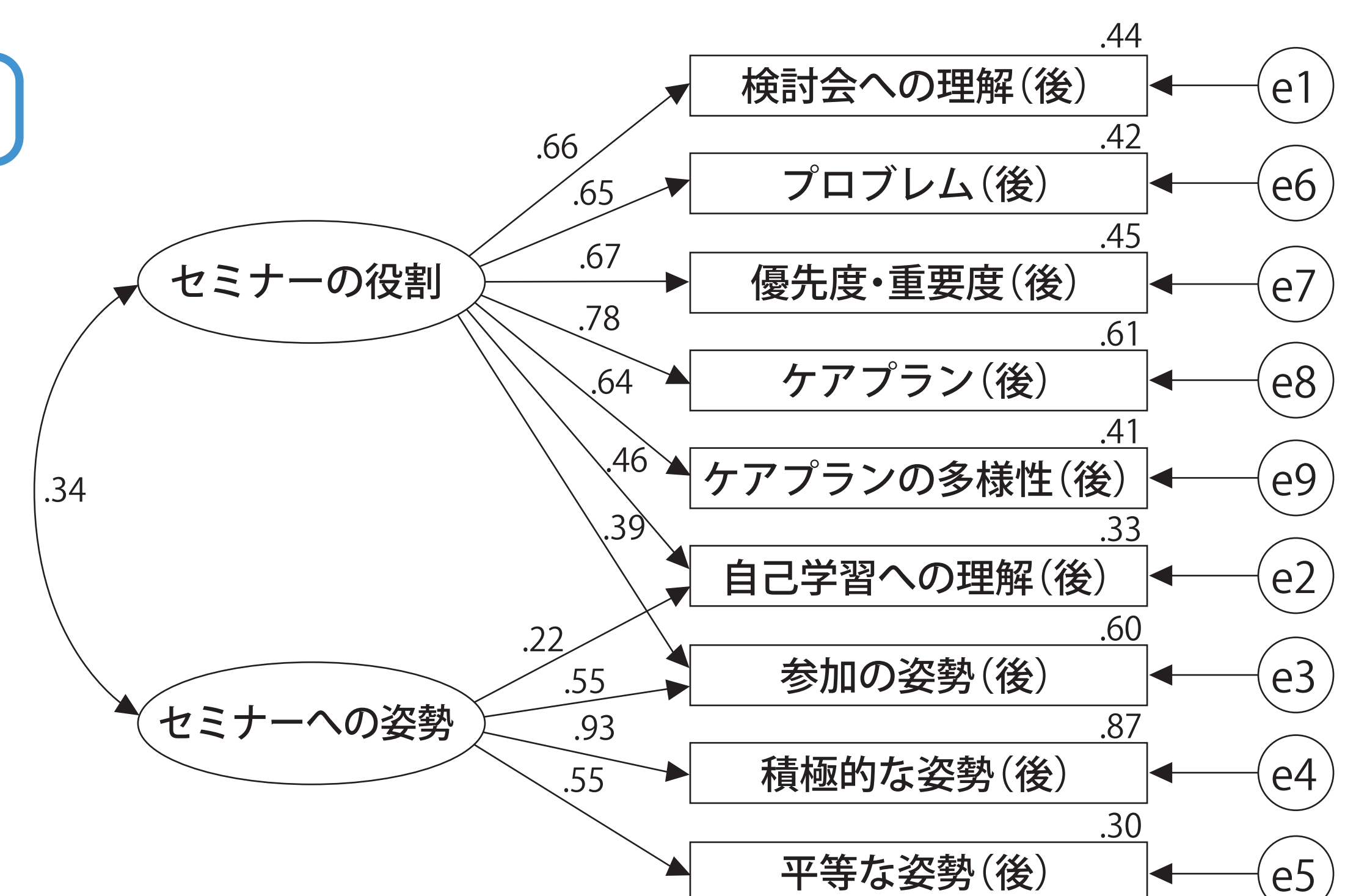


各項目について

	総合評価との 相関(前)	総合評価との 相関(後)	平均点 (前)	平均点 (後)	前後の 平均点の差	無相関の検定 [P値:判定(*:5% **:1%)]
検討会への理解	-0.002	0.261	2.90	1.79	1.111	*
自己学習への理解	0.089	0.299	2.44	1.69	0.756	**
参加の姿勢	-0.032	0.166	2.63	2.09	0.544	
積極的な姿勢	0.066	0.113	2.60	2.04	0.556	
平等な姿勢	0.046	0.267	2.32	1.90	0.422	*
プロブレム	-0.064	0.031	2.94	2.32	0.622	
優先度・重要度	-0.011	0.237	2.89	2.19	0.700	*
ケアプラン	-0.039	0.135	2.89	2.22	0.667	
ケアプランの多様性	0.009	0.064	3.04	2.39	0.656	

パス図

自由度 = 24
X²乗値 = 44.964
p値 = .006
GFI = .903
AGFI = .819
CFI = .923
RMSEA = .099



参加した薬剤師の約8割は目標を達成できた。さらにほぼ全員がセミナーに満足した成果が得られた。総合評価との相関で有意差のある「検討会への理解」「自己学習への理解」「平等な姿勢」「優先度・重要度」については、セミナーでの効果があった。パス図は、ある程度のあてはまるモデルであった。

総括

セミナーに参加した薬剤師においては、非常に満足された成果を得ることができた。これは、セミナーの重要性を認識した結果が、目標達成度と総合評価につながったと考えられる。各研修項目において、成果があったものとなかったものを明確にすることができた。今後として、積極的なセミナーへの参加の意識向上や薬歴管理の更なる技術向上に向けた内容が課題である。